

アイヌ民族の声を道政に

先住民族であるアイヌ民族の人権を守り、
アイヌ施策にアイヌ民族の声を反映させます。

私・石川ともひろが衆議院議員を務めていた2008年、「アイヌ民族を先住民族とすることを求める決議」が衆参両院で全会一致で採択されました。これはその前年、国連において「先住民族の権利に関する国際連合宣言」（以下、国連宣言）が採択されたことを踏まえ、「宣言の趣旨を体して具体的な行動をとることが、国連人権条約監視機関から我が国に求められている」とした上で、アイヌ民族を「先住民族と認めること」と、「アイヌ政策を更に推進し、総合的な施策の確立に取り組むこと」を決議したものです。

しかし、政府が閣議決定し今国会での成立をめざしているアイヌ新法案（アイヌの人々の誇りが尊重される社会を実現するための施策の推進に関する法律案）は、残念ながら国連宣言と国会決議に沿ったものとは言えません。なぜなら同法案は、アイヌ民族を先住民族と認めてはいるものの、国連宣言が求めている先住民族の自己決定権をはじめ、土地、資源、言語、文化に関する権利の保障といった先住権について全く触れていないからです。

また、アイヌ民族に対する過去の不正義、侵略の歴史への反省は法案に言及されておらず、政府も謝罪をしていません。

北海道開発はアイヌ民族抑圧の歴史でもありました。私・石川ともひろは、過去の不正義、侵略の歴史に対して、知事として謝罪することからアイヌ民族施策をはじめます。そして、私はアイヌ民族に関する施策をアイヌ民族抜きに決めません。アイヌ民族のみなさんの参加の中で、国連宣言と国会決議の趣旨に叶う、国際水準のアイヌ民族政策、アイヌ民族施策をすすめていきます。

2019年3月30日

北海道知事候補 石川ともひろ